生まれ変わる大口町の桜並木

次世代につなげる

いよいよ4月。待ちに待った春がやってきました。

新年度を祝うように訪れる桜の開花。五条川堤に一斉に咲き乱れる桜並木を見ると、新しく始まる年度に自然に心が浮き立ちますね。

大口町の五条川堤の桜は、歴史が浅く、植えられたのは60年ほど前のことです。ソメイヨシノという日本で最も植えられている品種の桜ですが、寿命が約60年ということは広く知られていません。今、一斉に寿命を迎え、危機に瀕しています。

今回の特集は、五条川の桜並木を守り、次世代に確実につなげるための活動や取り組みをご紹介します。

大口町民の心のふるさと

大口町の五条川の桜は、戦後の復興期である昭和28年頃より、当時村長であった社本鋭郎氏が大口村の地域活性化を願い、植樹を始めました。河川を管理する県の許可がなかなか下りないという苦労や、桜が大きくなると日陰になって稲が育たないなどの理由の反対運動を乗り越え、徐々に大口町を流れる五条川全体に広がりました。それから60年余がたち、今では1800本もの立派な桜並木となり、「桜の名所100選*」に選ばれるほどの見事な景観へと育ちました。

周知のとおり、桜の開花時期には、4月の第1日曜日（今年は4月3日）におこなわれる金助桜まつりや、平成16年に始まった夜の五条川ライトアップなどで、町民だけでなく近隣市町より訪れた多くの人々を楽しませています。現在の五条川では大口町だけでなく、江南市、岩倉市にも並木が続いています。

*平成2年、財団法人日本さくらの会が選定。愛知県では、岡崎公園、山崎川四季の道、鶴舞公園、五条川の桜の4か所が選ばれています。

「ソメイヨシノ」の危機

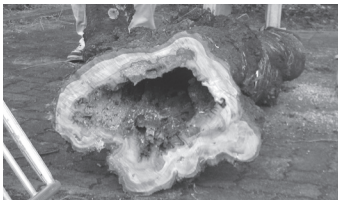
五条川の桜並木が息をのむほどの美しさで人々を魅了する理由の一つに、葉より先に花が一斉に開くことがあげられます。この特性は「ソメイヨシノ」という品種の特徴で、国内の桜の8割がこの桜だといわれています。全国的に多く植えられていてどれもが同じ時期に開花するため、毎年この時期にニュースで報じられる「開花予想」の基準にもなってい

ます（北海道、沖縄を除く）。

なぜ、同じ時期に咲くのでしょうか？ ソメイヨシノは江戸時代に人工的な交配によって生まれた園芸品種で、その誕生には諸説ありますが、エドヒガンとオオシマザクラの交配によって誕生し、園芸家が挿し木によって増やしたという説が最も有力です。クローンであるため、開花時期がほぼ同じという特徴をもっているのです。

このソメイヨシノ、若木のうちから花を咲かせ、育てやすいことから桜を愛する日本人に人気で、国内に爆発的に増えましたが、実はいくつかの欠点ももっています。まず、病気に弱いこと。そして、寿命が60年から70年と短命であることです。

大口町内のソメイヨシノも、維持管理の一環として定期的に樹木医などの専門家による診断や、委託による剪定、間伐等をおこなっています。しかし、植樹から60余年たった今、一斉に寿命を迎え、抜本的な対策が必要となってきました。


▲空洞化した桜

桜並木を守るために「五条川水と桜のプロジェクト」

大口町の大切な財産である桜並木を次世代につないでいくため、平成24年11月より大口町に「五条川水と桜のプロジェクト」が立ち上がりました。平成25年には県の占用許可をとり、五条川と桜並木は正式に大口町の管理下となりました。以来、桜並木の保全と再生に向け、さまざまな事業が始動しています。

①土壌改良の実証実験

従来、枯れた桜の木を伐採してきましたが、抜根という根も含めた処理をおこなうようにします。これは、ソメイヨシノが連作障害に弱いため、土壌改良が必要とされるからです。平成26年度までに抜根した場所を竹炭などによって土壌改良をし、平成28年2月に苗木を植えました。うまく育てば、土壌改良により連作障害を避けられる実証となります。

②エドヒガンの検討

町内に、100年以上前から存在する「桜」があるのをご存知でしょうか。「八佐の津島神社」「高橋の諏訪神社」「新田」に単体でそびえ立つ巨木の桜は、エドヒガンという品種です。

エドヒガンの寿命は100年以上。有名な「根尾谷の淡墨桜」は樹齢1400余年です。専門の調査機関に委託し、上記3本の桜のDNA鑑定をおこなったところ、3本のうち2本（「八佐の津島神社」と「高橋の諏訪神社」）は遺伝的に近縁であり、主要な品種のデータベースにはなかったことから、大口町古来の品種であることが分かりました。

▲試験的に植樹したエドヒガンとソメイヨシノ

現在、この古来の桜を組織培養し、大口町にしか存在しない品種として苗木を育てる計画が進んでいます。うまくいけば、「大口町の桜」として誕生するかもしれません。

愛される桜、永遠に…

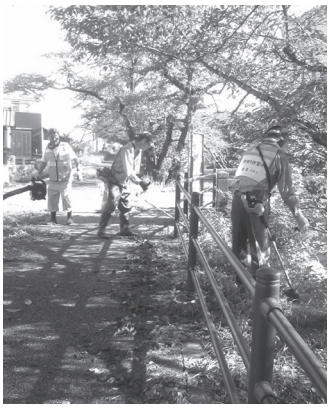
昨年11月のふれあいまつりにて、「五条川水と桜のプロジェクト」が五条川の桜並木に関するアンケートを実施し、277名の来場者の方に回答をいただきました。「五条川の桜並木は好きですか」という質問に対し、ほぼ全員の方が「大好き」または「好き」と答えました。また、「五条川の桜並木を将来へ残していきたいですか」という質問に対しては、「ぜひ残したい」または「残したい」と答えてくれました。

「毎年花見が楽しみ」「子供の頃からの思い出がたくさんある」「桜を見ると大口町に住んでいてよかったと思える」など、多くの方が桜並木への深い愛着を示し、次世代への保全を願っていることが分かりました。

まちづくり団体の活動

多くの町民に愛され心のふるさとなっている桜並木の保全に、並々ならぬ尽力をしてくださっている方々がいます。現在、町内の6つの団体が毎年、草刈りや施肥（消毒）などをおこない、町内に流れる五条川全域の桜並木の健康を保ってくださっています。今回、この6団体の内3つの団体に、保全活動を通しての想いをお聞きしました。

河北クラブ「五条川の桜並木をずっと残していきたいとの想いで活動しています。活動範囲が広く大変ですが、通学路では保護者の方が一緒に手伝ってくださったり、子どもたちが『お疲れさまです』と声をかけてくれたりしてうれしく思います。並木の保存の取り組みには期待しています」（代表　脇坂季憲さん）


▲河北クラブ

上小口倶楽部「活動を通して桜への愛着がわき、地域やメンバー間の連携も生まれています。作業のしにくい急勾配の場所もありますが、草を刈ることで少しでも桜の木の根に光をあてて元気になってほしい。桜の保全のプロジェクトを多くの町民に知ってもらい、町全体で桜を見守ることができればと思います」（代表　奥村勝利さん）

▲上小口倶楽部

みんなの清流会「五条川の桜並木は大口町の貴重な資源。未来に残そうという気持ちで活動しています。メンバーが高齢化してきているのが悩みですが、活動しているときに近所の方がお茶を出してくれたり、ねぎらいの言葉をかけてくれたりするのでやりがいを感じます。植樹を親子孫三代でおこなったり、企業も含めて保全活動をおこなったりして地域全体で桜を守っていければと思います」（代表　宮地弘信さん）

※他に「中小口倶楽部」「大口環境を守る会」「わくわくおおぐち21」の各団体が桜保全活動に携わっています。

▲みんなの清流会

取材にて

毎年、春の訪れとともに当たり前のように花開く桜並木。こぼれんばかりに咲き誇る美しく豊かな風景を見ていると、そこにあるのが当たり前の感覚になりますが、実は木々の寿命はすぐそこに迫っています。

大口町民にとって桜並木のない五条川は考えられず、花見のできない春は想像できません。この美しい景色を毎年見ることができるのは、苦労して桜並木を植え育てた先人たち、そして現在、労を惜しまず保全に携わっておられる多くの方々のお陰に他ならないことを忘れてはなりません。そして、これからは、この風景を未来永劫（えいごう）当たり前にそこにある風景として子孫に残すため、我々に何ができるかを考える時期がきています。

大口町古来の品種「エドヒガン」の研究も、その取り組みの一部です。培養、苗木の育成に成功すれば、将来大口町にしかない「エドヒガン」で五条川沿いを埋め尽くすことも夢ではありません。

今年は、そんなことにも思いを馳せながら花見を楽しんでみてはいかがでしょうか。

ライブカメラ設置中

大口町役場から五条川にカメラを向け、ライブ中継をおこなっています。桜並木の開花状況の確認にぜひご利用ください。

大口町 HP → サイバーコミュニティ大口
→ ライブカメラ

取材・文／大口町 NPO 登録団体 ZOOM